

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870103185
法人名	有限会社 ジー・エル ファミール
事業所名	グループホーム ファミール桑原
所在地	松山市桑原7丁目1-36イーストビレッジ大和1F
自己評価作成日	平成23年8月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年9月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

なじみの環境の中で安心して生活していただく為に、職員と利用者が生活を共にしながら、お互いに尊敬し合い、思いやりをもって支えあう関係を築いていきたいとおもっています。個々の意見、意向をケアに取り入れ、柔軟な対応が出来るように援助しています。
 クリニックが併設しており、日々看護職員とコミュニケーションが取れているので、状態の変化や、急変時の迅速な対応が出来ることで、利用者、職員共に安心して生活ができています。医療と連携する事で、希望があれば可能な限り、看取りもお受けしています。
 地域との交流も運営推進会議などから増えてきており、地域の方々に見守っていただきながら、交流の機会をもっと増やしていきたいと計画しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域で在宅医療を行っている代表者のクリニックが併設され、医療連携体制が整っている。夏祭り等の行事を開催し、地域とのつながりも深まっている。管理者は、開設当初から勤務しており利用者や家族、職員から信頼されており、職員同志のチームワークも良い。入居期間の長い利用者が多く、第2の我が家となった事業所で適切な健康管理と温かいケアにより、穏やかに落ち着いた暮らしができています。利用者と職員は同じ食卓を囲み、食後お茶を飲みながらおしゃべりを楽しんでいる。介護経験豊富な職員の笑顔が利用者を安心させ元気にしている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム ファミール桑原

(ユニット名) Aユニット

記入者(管理者)

氏名 谷本 貴子

評価完了日

平成 23 年 8 月 20 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 申し送り、カンファレンスなどの際に基本理念に基づいて日々のケアが出来ているか話し合う機会持つようにしている。毎月職員で話し合い、理念に添った目標を決めることで、意識しながらケアできるようになっている。 大切な事なので、これからも意識付けできるような工夫を取り入れて行きたい。</p> <p>(外部評価) 開設時に作成した事業所の理念は、重要事項説明書に記載するとともに玄関の見えやすい所に掲示し、全職員で共有している。理念をもとに職員間で話し合い、月ごとの目標をたて実践につなげている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 買い物や、理美容院など近隣の店舗を利用させていただいている。散歩や、日向ぼっこなど外に出る機会や、地域の方に声を掛けていただくことも多くなり、職員も積極的に挨拶や声掛けを行っている。運営推進会議などで地域の行事なども教えていただき出来るだけ参加させていただきようとしている。</p> <p>(外部評価) 地域の秋祭りや地区の夏祭り等に参加したり、事業所主催の夏祭りや運営推進会議等に参加してもらう等、地域との交流が図られている。また近くの短大の実習生を受け入れる等同じ地区の関係機関とも連携を図っている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議を利用し、地域や家族様に向けて「糖尿病」「車椅子の押し方」の勉強会をさせていただいた。 これからも、機会を作り、事業所としての地域への役に立てるように、工夫していきたい。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2～3ヶ月に1回の運営推進会議は、定着してきており、状況の報告もさせて頂いている。特に、災害時の緊急連絡網作成や、消防訓練等には、積極的に参加して頂いている。	
			(外部評価) 地域の民生委員や市担当者等の参加を得て2～3か月ごとに開催している。昨年度は防災訓練や夏祭り等の行事に合わせて開催し交流するとともに、事業所の状況報告等を行った。	運営推進会議が2か月に1回定期的に開催され、参加者からの意見や要望を聞き、サービス向上に活かされる仕組みづくりに期待したい。また、職員も交替で参加して直接意見を聞いたり、詳細な会議録を作成し参加できなかった職員に周知する等、職員の関わりを促すような取り組みを望みたい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議の機会を利用して、情報交換させていただいている。市地域包括支援センターや市の連絡会などには積極的に参加していきたい。	
			(外部評価) 市担当者とは開設当初から連携を取っており、運営推進会議にも毎回参加してもらっている。地域包括支援センターが中心となり同じ地域8か所のグループホーム連絡会を立ち上げており、協力し合える関係が構築されている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 代表者、管理者は、身体拘束の弊害を充分理解している。対応に苦慮する場合は、家族様も含め、話し合いを重ね、情報を集め、工夫し、身体拘束をしないケアを実践していく。また事業所内にその意志を掲示した。緊急やむ終えない場合は、きちんと記録に残す事を、徹底している。	
			(外部評価) 身体拘束について全職員が正しく理解し適切なサービスが提供できるよう話し合いを重ねている。常に利用者の立場に立ったケアができるよう、管理者は職員の心身状況にも配慮している。玄関は施錠しておらず、利用者は自由に花壇の水やり等をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修は参加する機会を作り、持ち帰って勉強会に繋げていく事で職員の意識を高めていくようにしている。日常のケアでも職員間で注意しあえる環境になるように、カンファレンス等でも話し合っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 管理者は、理解してる。また、研修で勉強している職員も居るが全員とはいかない。利用者様で後見人制度を利用されている方が居られ、事業所にも訪問して下さっている為、職員は制度自体は理解している。学ぶ機会を作って生きたいと思う。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約、解約時には充分時間を取って重要事項説明書や、契約書に添って話をさせて頂いている。また、疑問や不安な事があった場合の相談窓口を設けおり、入居時に案内させていただいている。状態の変化による機器等の負担に関しても家族様と相談しながら決定している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 行事の際や日常でも、家族様が訪ねて来きて頂きやすいように機会を作り意見を出しやすい関係作りに努めている。個々の面会時にも同様に、はなしを伺う機会を作っている。また、頂いた意見は、皆で共有出来る様に、申し送りや、カンファレンスの際に話し合い、反映できるようにしている。苦情相談窓口を提示している。 (外部評価) 管理者は利用者や家族との信頼関係を大切にし、常に笑顔で対応している。訪問の少ない家族へも月1回は状況報告を行い、行事案内を送っている。利用者や家族から意見や要望等が出された場合は、受付者が申し送りノートに記録し必ず伝達されるよう責任ある対応を心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 日々のケアの場面でもカンファレンスでもオープンな場を設け、職員の意見やアイデアを活かせ、取り入れるように努力している。各ユニットのカンファレンスにお互いの職員が参加し、意見交換や、情報の共有が出来るようにしている。また、職員からの意見を管理者会議で報告し、取り入れるようにしている。</p> <p>(外部評価) 今まで一人で行ってた入浴介助を必要に応じて二人体制にする等、職員はよりよいサービス提供のため積極的に提案を行い業務に反映させている。職員の要望等を管理者から代表者へ伝える体制もできている。職員が働きやすいよう勤務体制の改善が図られている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 代表者は、月に1回管理者会議を開き、職員の状況や、就業環境の把握に努め、対応している。また、親睦会を開き、交流の機会を作っている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 自主的に参加する職員も多く、また、出来るだけ参加できる機会を作れるように個々にも参加を促している。研修案内は見えるところに掲示しており、誰でも参加できるようにしている。研修参加後は、事業所内へ持ち帰り参加者が主となり、職員間で勉強会を行うようにしている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 近隣グループホーム連絡会、地域密着型サービス協会の相互研修や研修など、交流の機会を作り、閉鎖的にならず、働く意欲の向上や、気付きなどに繋がるようにしてる。交流する機会も増えてきている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 可能な限り、利用者ご本人に入居前から実際にホームの様子を見て頂き、納得していただき入居となるようにしている。家族様や関係機関からも出来るだけ情報を集め、本人の意向を尊重できるように援助している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居時には、家族様からの話を聞く時間を充分に取るようにしている。また、訪問の時間など特に決めずに、生活の様子を見て頂き、話を伺うことで、家族様の心情を理解するように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 家族様からの情報を収集して、また、こちらからの情報提供も行いながら、必要なサービスが利用できるように援助している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 同じものを食べ、生活を共にしながら、経験、知恵を教えて頂いており、職員も共に生活しているように感じている。自然な形で、年長者を敬う気持ちが持てると思う。また、経験や、知恵をを活かせる場面を作れるように努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族様が、訪ねて来やすい環境となるように訪問時間を特に決めずに、また、家族様にしか出来ない援助は、負担にならない様に配慮しながら、お願いしている事も多い。食事を一緒に摂って頂いたりする機会も作っている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会の時間を特に決めずに対応し、訪問者が気軽に気持ち良く来てくださるよう、職員全員で笑顔で対応出来るように努めている。昔ながらのなじみの関係を絶たないように、周りの方にも理解して協力していただけるように、これからも働きかけていきたい。 (外部評価) 面会に訪れる家族等の馴染みの人との関係が継続できるよう積極的に支援している。利用者や家族の希望に合わせて自宅へ荷物を取りに帰宅したり、墓参り等の支援も行い喜ばれている。入居期間が長くなりホームが第2の我が家になっている利用者もおり、新たな馴染みの関係支援にも努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係を把握する為に一人一人の話に耳を傾け、様子を職員が共有するように話し合っている。必要な場面にはさりげなく援助しながら、できるだけ利用者の関係作りを見守るようにしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 個人情報や、家族の心情に配慮しながら、退所後も必要な情報を提供できるようにしている。退所された後でも行事等声掛けさせて頂いたり、交流のある家族様もおられる。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 入居時のアセスメントから始まり、日々のケアのなかでの利用者からの意向や、職員の気付きを大切に職員全体で共有できる様な記録となりケアに生かせるように、努めている。記録の方法も皆で勉強しながら、検討している。 (外部評価) 利用者や家族との信頼関係を築き、職員は一人ひとりの思いや希望等の把握に努めている。それぞれに生活歴や家庭環境等が異なるため、管理者はプライバシーに十分配慮しながら全職員が情報共有できるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) プライバシーに気を付けながら、入居時のアセスメント以外にも、日々の生活の中からの情報も記録に残し、また、家族様からもお話を伺えるように努力している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の生活の様子を細かく記録に残し、体調の変化や、心身状態などの変化などに気付き配慮しながら、個々の持つ力が発揮できるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 生活を共にしていく中から担当者が主となり、利用者への聞き取りや、気付きなど課題や目標を見つけ出し、月に一回のカンファレンスで評価しあいながら毎月見直しを行っている	
			(外部評価) 利用者ごとに担当職員を決め全職員で話し合っ介護計画を作成している。利用者との関わりが深くなりすぎないように担当は定期的に交代しているが、交代時に利用者や家族の混乱を招かぬよう工夫している。日々の介護記録は計画に沿ってわかりやすく記載され、毎月モニタリングをして見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) バイタル以外にも、言葉、表情、動作等日常生活の様子が分かるような記録になるようにし、その中から気付き状態の変化など早期発見できたり、日常のケアに繋がる事も多い。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 既存のサービス以外にも、ボランティアさんなどの支援を頂きながら、個々のニーズに対応出来るように工夫している。これからは、情報を収集して、多様なサービスが提供できるようにしていきたい。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域との関わりが持てるように、地域の行事の参加、近隣店舗の利用、近所への散歩等できる事から、努力している。これからは、ホームへ地域の方が来てくださるような催しも増やしていきたい。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) クリニックと併設している為、入居時にかかりつけ医 の変更を希望される方はおおいが、以前からのかかり つけ医の方も居られ、往診や家族様の協力を得ながら 援助している。また、必要に応じて、専門医への受診 も援助している。 (外部評価) 代表者が院長を務める訪問診療専門のクリニックが ホームに併設されており、利用者は適切に医療を受け ることができている。通院等は家族が同行している。 クリニックの看護師との連携体制も構築され利用者の 健康管理が十分されており、緊急時の対応もスムーズ にできている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) クリニックと併設している為、職員、利用者共に日頃 から、訪問看護師とのコミュニケーションが取りやす く、日常の生活から理解していただきやすい。また、 少しの変化も相談出来、利用者の安心にも繋がって いる。これからも積極的の交流の機会を持ちたいと思 う。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院の際は、医療機関との話し合いなどの場には出来 るだけ立ち合わせて頂き、情報交換できるようにして いる。早期退院に向け、医療連携を結んでいる医師 や、看護師との連絡、調整を行い、ホームに戻ってか らも適切な医療が受けられるように支援している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 段階ごとに、家族様、担当医、看護師、職員等関係者 と話し合いの場を設け、納得できる支援が出来るよう に努力している。ターミナルについては、十分な話し 合いの機会を持ち、家族や、医療機関と連携を取りなが ら、本人や家族、また、職員も納得できるケアとなる ように慎重に行っている。 (外部評価) 重度化や終末期に向けた事業所の方針は入居時に利用 者や家族に説明し、希望や思いを確認している。医師 である代表者が内部研修を行い職員の技術向上を図っ ている。家族の理解と協力のもと、看取りを実施した 経験もある。	職員の技術向上研修など受け入れ体制のさらなる充実 を図り、重度化する利用者を支援するために利用者や 家族が希望する最期を安心して迎えることができる事 業所としての取り組みに期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時の対応や、連絡先はマニュアル化し職員の見える場所に置いている。消防避難訓練に合わせ年に1度は救急蘇生法の講習を取り入れているまた、訓練後の総評やその際に、気付いた改善を活かすようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に2回の消防訓練では、地域の方々に協力いただいて参加していただいている。職員だけでは対応出来ない災害時にどこまで安全に非難できるか話しあう場を地域の方々と重ねていきたい。風水害時のマニュアルと地域の緊急連絡網は現在作成中である。 (外部評価) 地域の防災士や民生委員の協力のもと年2回消防訓練を実施している。マンションの1階にあり避難経路も確保され、キッチンにはIH調理器を使用している。現在、地域と連携し風水害時のマニュアルを作成中である。	地域では防災の取り組みが進められており、関係者と連携しながら、事業所も地域の一員として災害対策に取り組むことを期待したい。また、災害時には在宅高齢者の支援等、事業所を活用した取り組みにも期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 特に言葉使いに対し、常に意識し温かく思いやりのある言葉が使えるように話し合っている。自分達の対応や言葉かけが、適切かどうかを振り返る機会を持てるように繰り返し話し合う場を作りたい。 (外部評価) 利用者一人ひとりを尊重した態度や言葉遣いができるよう職員同士で話し合い、互いに注意し合っている。節度を守り、親しみや思いやりある対応を心掛けている。管理者の指導のもと利用者の誇りやプライバシーを損ねないよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 言葉だけではなく、表情や反応を注意深く捉え、その意味を考え対応するように話し合っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 個々の生活リズムが優先できるように支援している。職員やホームの都合で対応出来ないときは、事情を説明させて頂き、出来るだけ理解していただけるようにしている。また、別の機会を設けるようにしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 地域との交流、外出の機会、行事を取り入れる、など身だしなみを気にしたり、おしゃれしたい気持ちになるように支援している。また、個々のおしゃれの感覚を尊重している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 季節の食べ実のを取り入れ、手作りを心がけ、職員と利用者が一緒に食卓に着くことで話が弾み、美味しく、楽しく食事が取れるような雰囲気作りに努力している。 (外部評価) メニューは職員が交代で考え調理している。季節感や利用者の好みを取り入れた食事は、野菜が多く使われ味付けも美味しく、ほとんどの利用者が完食している。職員も一緒に食卓を囲み同じものを食べ、楽しく会話しながらさりげなく見守りをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 職員が、食事や水分の大切さを勉強し、個々の状態や、好みに合わせ工夫している。また、記録に残し、情報を共有している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後3回の口腔ケアを習慣化できるように声掛けし、必要な所は援助している。必要な場合には、歯科往診や、口腔ケアも取り入れて、日常のケアにもアドバイス頂いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 日頃の排泄パターンを把握し、個々の状態に合わせて、日中はトイレで排泄出来るように、夜間は、安眠を目的とした排泄の援助を行っている。なるべく薬に頼らない自然な排泄ができるように、食事や運動など工夫している。	
			(外部評価) 日中は排泄パターンを把握しトイレでの排泄を支援している。夜間はオムツやパットの使用により安眠を優先させているが、利用者の不快感を軽減させるため使用するオムツ等の枚数はできるだけ少なくしている。失敗した時も羞恥心に配慮しながら対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 野菜、寒天、ヨーグルトなどを多く取り入れた食事の提供や、十分な水分摂取、適度な運動などで便秘にならない生活の工夫を行っている。また、トイレで落ち着いて排泄できるように環境作りに気を付けている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 利用者の希望や状態に合わせて、臨機応変に、入浴日、時間の設定を可能な限り行っている。夜間入浴を楽しまれている方もいる。入浴が楽しみや憩いの時間となるように、できる限り湯船につかっていただき、ゆっくりと入浴出来るように援助している。	
			(外部評価) 利用者の希望や体調に合わせて柔軟に対応している。必要に応じて2人介助で行ったり、夜間1人で入浴する利用者もいる。入浴好きで楽しみにしている利用者が多く、清潔が保たれ気持ちよく生活できている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 夜間は、安眠を重視したケアを行っており、日中の過ごし方にも気を付け、メリハリのある生活を送れるように援助している。日中もベッドで休息できるように援助している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 往診時には主治医から本人に解りやすく説明頂いているが、十分理解出来ない事も多い。往診時や受診時には、必ず家族様や職員が付き添い、正しい情報提供を行い、また、医師からの話と一緒に聞くようにしている。副作用についても、事前に情報を聞き、職員間で情報を共有し変化や状態を報告できるように記録に残している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 以前の生活の様子を利用者や家族様からお聞きし、継続できるように支援している。食事の後のコーヒーや、食事の際のお酒を楽しまれている方もいる。また、レクリエーションや、行事を取り入れ気分転換の機会を作っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 日々の散歩や買い物などできる限り支援している。また、実家に帰ったり、お墓参りなどの支援を家族様にも協力していただきながら支援している。	
			(外部評価) 利用者の希望に合わせて、買物や花見、観劇等外出して喜ばれている。近くの温泉に足湯があり利用している。実家への帰省や墓参りも家族と協力し支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 買い物や外出の際には、できる限り利用者にお金を払って頂く機会を作り、社会との繋がりを感じて頂けるようにしている。お金を持っていないと不安な利用者には、家族様の理解をいただき、少額のお金を持っていただく場合もある。また、必要な際には、預り金があることを利用者に伝え、安心していただいている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	(自己評価) 入居者様が十分に行えない部分はフォローしながら、電話や手紙のやり取りを援助している。年賀状や暑中見舞いなど季節に合わせた挨拶状を書く機会を作っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節を感じて頂く為に生花を生けたり、手作りの飾り物を共有スペースに飾っている。環境を整え、快適に過ごせるように支援している。また、職員の声の大きさ、テレビの音量、レクリエーションの際の音などにも配慮している。	
			(外部評価) マンションの1階を改築してグループホームにしている。玄関から直線の廊下を挟んで両側に居室があり、廊下には行事ごとに撮影された写真等が飾られている。居間兼食堂は明るく食後はお茶を飲みながら利用者と職員がゆっくり過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 安全に配慮しながら出来るだけ自由に思い思いに過ごせるように、また、個々の生活スペースにはプライバシーに配慮しながら必要以上に立ち入らないようにしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居時に馴染みの物を持ち込んで頂く事で、これまでの生活と同じような環境で、安心して暮らして頂けるように援助している。仏壇を持ち込まれている方もいる。	
			(外部評価) 各居室の入口には名前が書かれたり、利用者ごとにわかりやすい目印を付けたりする等の工夫がされている。たんすとベッドは備え付けられている。テレビやいす等、使い慣れた物が持ち込まれている。利用者ごとにプライバシーも確保され、安全に居心地よく過ごせる居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 手すり、表札、表示などを利用し、生活スペースで困っている場合には、日用品などを工夫したり改修や介護用品を取り入れ、安全に生活出来るように支援している。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870103185
法人名	有限会社 G・L ファミール
事業所名	グループホーム ファミール桑原
所在地	松山市桑原7丁目1-36イーストビレッジ大和1F
自己評価作成日	平成23年8月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年9月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

なじみの環境の中で安心して生活していただく為に、職員と利用者が生活を共にしながら、お互いに尊敬し合い、思いやりをもって支えあう関係を築いていきたいと思っています。個々の意見、意向をケアに取り入れ柔軟な対応が出来るように援助しています。
 クリニックが併設しており、日々看護職員とコミュニケーションが取れているので、状態の変化や、急変時の迅速な対応が出来る事で、利用者、職員共に安心して生活できています。医療と連携する事で、希望があれば可能な限り、看取りもお受けしています。
 地域との交流も運営推進会議などから増えてきており、地域の方々い見守っていただきながら、交流の機会をもっと増やして行きたいと計画しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域で在宅医療を行っている代表者のクリニックが併設され、医療連携体制が整っている。夏祭り等の行事を開催し、地域とのつながりも深まっている。管理者は、開設当初から勤務しており利用者や家族、職員から信頼されており、職員同志のチームワークも良い。入居期間の長い利用者が多く、第2の我が家となった事業所で適切な健康管理と温かいケアにより、穏やかに落ち着いた暮らしができています。利用者と職員は同じ食卓を囲み、食後もお茶を飲みながらおしゃべりを楽しんでいる。介護経験豊富な職員の笑顔が利用者を安心させ元気にしている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームファミール桑原

(ユニット名) Bユニット

記入者(管理者)
氏名 谷本貴子

評価完了日 平成 23 年 8 月 20 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 申し送り、カンファレンスなどの際に基本理念に基づいて日々のケアが出来ているか話し合う機会持つようにしている。毎月職員で話し合い、理念に添った目標を決めることで、意識しながらケアできるようになっている。 大切な事なので、これからも意識付けできるような工夫を取り入れて行きたい。</p> <p>(外部評価) 開設時に作成した事業所の理念は、重要事項説明書に記載するとともに玄関の見えやすい所に掲示し、全職員で共有している。理念をもとに職員間で話し合い、月ごとの目標をたて実践につなげている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 買い物や、理美容院など近隣の店舗を利用させていただいている。散歩や、日向ぼっこなど外に出る機会 で、地域の方に声を掛けていただくことも多くなり、職員も積極的に挨拶や声掛けを行っている。運営推進会議などで地域の行事なども教えていただき出来るだけ参加させていただきようとしている。</p> <p>(外部評価) 地域の秋祭りや地区の夏祭り等に参加したり、事業所主催の夏祭りや運営推進会議等に参加してもらう等、地域との交流が図られている。また近くの短大の実習生を受け入れる等同じ地区の関係機関とも連携を図っている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議を利用し、地域や家族様に向けて「糖尿病」「車椅子の押し方」の勉強会をさせていただいた。 これからも、機会を作り、事業所としての地域への役に立てるように、工夫していきたい。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2～3ヶ月に1回の運営推進会議は、定着してきており、状況の報告もさせて頂いている。特に、災害時の緊急連絡網作成や、消防訓練等には、積極的に参加して頂いている。	
			(外部評価) 地域の民生委員や市担当者等の参加を得て2～3か月ごとに開催している。昨年度は防災訓練や夏祭り等の行事に合わせて開催し交流するとともに、事業所の状況報告等を行った。	運営推進会議が2か月に1回定期的に開催され、参加者からの意見や要望を聞き、サービス向上に活かされる仕組みづくりに期待したい。また、職員も交替で参加して直接意見を聞いたり、詳細な会議録を作成し参加できなかった職員に周知する等、職員の関わりを促すような取り組みを望みたい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議の機会を利用して、情報交換させていただいている。市地域包括支援センターや市の連絡会などには積極的に参加していきたい。	
			(外部評価) 市担当者とは開設当初から連携を取っており、運営推進会議にも毎回参加してもらっている。地域包括支援センターが中心となり同じ地域8か所のグループホーム連絡会を立ち上げており、協力し合える関係が構築されている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 代表者、管理者は、身体拘束の弊害を充分理解している。対応に苦慮する場合は、家族様も含め、話し合いを重ね、情報を集め、工夫し、身体拘束をしないケアを実践していく。また事業所内にその意志を掲示した。緊急やむ終えない場合は、きちんと記録に残す事を、徹底している。	
			(外部評価) 身体拘束について全職員が正しく理解し適切なサービスが提供できるよう話し合いを重ねている。常に利用者の立場に立ったケアができるよう、管理者は職員の心身状況にも配慮している。玄関は施錠しておらず、利用者は自由に花壇の水やり等をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修は参加する機会を作り、持ち帰って勉強会に繋げていく事で職員の意識を高めていくようにしている。日常のケアでも職員間で注意しあえる環境になるように、カンファレンス等でも話し合っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 管理者は、理解してる。また、研修で勉強している職員も居るが全員とはいかない。利用者様で後見人制度を利用されている方が居られ、事業所にも訪問して下さっている為、職員は制度自体は理解している。学ぶ機会を作って生きたいと思う。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約、解約時には充分時間を取って重要事項説明書や、契約書に添って話をさせて頂いている。また、疑問や不安な事があった場合の相談窓口を設けおり、入居時に案内させていただいている。状態の変化による機器等の負担に関しても家族様と相談しながら決定している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 行事の際や日常でも、家族様が訪ねて来きて頂きやすいように機会を作り意見を出しやすい関係作りに努めている。個々の面会時にも同様に、はなしを伺う機会を作っている。また、頂いた意見は、皆で共有出来る様に、申し送りや、カンファレンスの際に話し合い、反映できるようにしている。苦情相談窓口を提示している。 (外部評価) 管理者は利用者や家族との信頼関係を大切にし、常に笑顔で対応している。訪問の少ない家族へも月1回は状況報告を行い、行事案内を送っている。利用者や家族から意見や要望等が出された場合は、受付者が申し送りノートに記録し必ず伝達されるよう責任ある対応を心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 日々のケアの場面でもカンファレンスでもオープンな場を設け、職員の意見やアイデアを活かせ、取り入れるように努力している。各ユニットのカンファレンスにお互いの職員が参加し、意見交換や、情報の共有が出来るようにしている。また、職員からの意見を管理者会議で報告し、取り入れるようにしている。</p> <p>(外部評価) 今まで一人で行ってた入浴介助を必要に応じて二人体制にする等、職員はよりよいサービス提供のため積極的に提案を行い業務に反映させている。職員の要望等を管理者から代表者へ伝える体制もできている。職員が働きやすいよう勤務体制の改善が図られている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 代表者は、月に1回管理者会議を開き、職員の状況や、就業環境の把握に努め、対応している。また、親睦会を開き、交流の機会を作っている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 自主的に参加する職員も多く、また、出来るだけ参加できる機会を作れるように個々にも参加を促している。研修案内は見えるところに掲示しており、誰でも参加できるようにしている。研修参加後は、事業所内へ持ち帰り参加者が主となり、職員間で勉強会を行うようにしている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 近隣グループホーム連絡会、地域密着型サービス協会の相互研修や研修など、交流の機会を作り、閉鎖的にならず、働く意欲の向上や、気付きなどに繋がるようにしてる。交流する機会も増えてきている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 可能な限り、利用者ご本人に入居前から実際にホームの様子を見て頂き、納得していただき入居となるようにしている。家族様や関係機関からも出来るだけ情報を集め、本人の意向を尊重できるように援助している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居時には、家族様からの話を聞く時間を充分に取るようにしている。また、訪問の時間など特に決めずに、生活の様子を見て頂き、話を伺うことで、家族様の心情を理解するように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 家族様からの情報を収集して、また、こちらからの情報提供も行いながら、必要なサービスが利用できるように援助している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 同じものを食べ、生活を共にしながら、経験、知恵を教えて頂いており、職員も共に生活しているように感じている。自然な形で、年長者を敬う気持ちが持てると思う。また、経験や、知恵をを活かせる場面を作れるように努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族様が、訪ねて来やすい環境となるように訪問時間を特に決めずに、また、家族様にしか出来ない援助は、負担にならない様に配慮しながら、お願いしている事も多い。食事を一緒に摂って頂いたりする機会も作っている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会の時間を特に決めずに対応し、訪問者が気軽に気持ち良く来てくださるよう、職員全員で笑顔で対応出来るように努めている。昔ながらのなじみの関係を絶たないように、周りの方にも理解して協力していただけるように、これからも働きかけていきたい。 (外部評価) 面会に訪れる家族等の馴染みの人との関係が継続できるよう積極的に支援している。利用者や家族の希望に合わせて自宅へ荷物を取りに帰宅したり、墓参り等の支援も行い喜ばれている。入居期間が長くなりホームが第2の我が家になっている利用者もおり、新たな馴染みの関係支援にも努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係を把握する為に一人一人の話に耳を傾け、様子を職員が共有するように話し合っている。必要な場面にはさりげなく援助しながら、できるだけ利用者の関係作りを見守るようにしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 個人情報や、家族の心情に配慮しながら、退所後も必要な情報を提供できるようにしている。退所された後でも行事等声掛けさせて頂いたり、交流のある家族様もおられる。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 入居時のアセスメントから始まり、日々のケアのなかでの利用者からの意向や、職員の気付きを大切に職員全体で共有できる様な記録となりケアに生かせるように、努めている。記録の方法も皆で勉強しながら、検討している。 (外部評価) 利用者や家族との信頼関係を築き、職員は一人ひとりの思いや希望等の把握に努めている。それぞれに生活歴や家庭環境等が異なるため、管理者はプライバシーに十分配慮しながら全職員が情報共有できるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) プライバシーに気を付けながら、入居時のアセスメント以外にも、日々の生活の中からの情報も記録に残し、また、家族様からもお話を伺えるように努力している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の生活の様子を細かく記録に残し、体調の変化や、心身状態などの変化などに気付き配慮しながら、個々の持つ力が発揮できるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 生活を共にしていく中から担当者が主となり、利用者への聞き取りや、気づきなど課題や目標を見つけ出し、月に一回のカンファレンスで評価しあいながら毎月見直しを行っている	
			(外部評価) 利用者ごとに担当職員を決め全職員で話し合っ介護計画を作成している。利用者との関わりが深くなりすぎないように担当は定期的に交代しているが、交代時に利用者や家族の混乱を招かぬよう工夫している。日々の介護記録は計画に沿ってわかりやすく記載され、毎月モニタリングをして見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) バイタル以外にも、言葉、表情、動作等日常生活の様子が分かるような記録になるようにし、その中から気づき状態の変化など早期発見できたり、日常のケアに繋がる事も多い。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 既存のサービス以外にも、ボランティアさんなどの支援を頂きながら、個々のニーズに対応出来るように工夫している。これからは、情報を収集して、多様なサービスが提供できるようにしていきたい。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域との関わりが持てるように、地域の行事の参加、近隣店舗の利用、近所への散歩等できる事から、努力している。これからは、ホームへ地域の方が来てくださるような催しも増やしていきたい。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) クリニックと併設している為、入居時にかかりつけ医 の変更を希望される方はおおいが、以前からのかかり つけ医の方も居られ、往診や家族様の協力を得ながら 援助している。また、必要に応じて、専門医への受診 も援助している。</p> <p>(外部評価) 代表者が院長を務める訪問診療専門のクリニックが ホームに併設されており、利用者は適切に医療を受け ることができている。通院等は家族が同行している。 クリニックの看護師との連携体制も構築され利用者の 健康管理が十分されており、緊急時の対応もスムーズ にできている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) クリニックと併設している為、職員、利用者共に日頃 から、訪問看護師とのコミュニケーションが取りやす く、日常の生活から理解していただきやすい。また、 少しの変化も相談出来、利用者の安心にも繋がって いる。これからも積極的の交流の機会を持ちたいと思 う。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院の際は、医療機関との話し合いなどの場には出来 るだけ立ち合わせて頂き、情報交換できるようにして いる。早期退院に向け、医療連携を結んでいる医師 や、看護師との連絡、調整を行い、ホームに戻ってか ら適切な医療が受けられるように支援している。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 段階ごとに、家族様、担当医、看護師、職員等関係者 と話し合いの場を設け、納得できる支援が出来るよう に努力している。ターミナルについては、十分な話し 合いの機会を持ち、家族や、医療機関と連携を取りなが ら、本人や家族、また、職員も納得できるケアとなる ように慎重に行っている。</p> <p>(外部評価) 重度化や終末期に向けた事業所の方針は入居時に利用 者や家族に説明し、希望や思いを確認している。医師 である代表者が内部研修を行い職員の技術向上を図っ ている。家族の理解と協力のもと、看取りを実施した 経験もある。</p>	<p>職員の技術向上研修など受け入れ体制のさらなる充実 を図り、重度化する利用者を支援するために利用者や 家族が希望する最期を安心して迎えることができる事 業所としての取り組みに期待したい。</p>

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時の対応や、連絡先はマニュアル化し職員の見える場所に置いている。消防避難訓練に合わせ年に1度は救急蘇生法の講習を取り入れているまた、訓練後の総評やその際に、気付いた改善を活かすようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に2回の消防訓練では、地域の方々に協力いただいて参加していただいている。職員だけでは対応出来ない災害時にどこまで安全に非難できるか話しあう場を地域の方々と重ねていきたい。風水害時のマニュアルと地域の緊急連絡網は現在作成中である。 (外部評価) 地域の防災士や民生委員の協力のもと年2回消防訓練を実施している。マンションの1階にあり避難経路も確保され、キッチンにはIH調理器を使用している。現在、地域と連携し風水害時のマニュアルを作成中である。	地域では防災の取り組みが進められており、関係者と連携しながら、事業所も地域の一員として災害対策に取り組むことを期待したい。また、災害時には在宅高齢者の支援等、事業所を活用した取り組みにも期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 特に言葉使いに対し、常に意識し温かく思いやりのある言葉が使えるように話し合っている。自分達の対応や言葉かけが、適切かどうかを振り返る機会を持てるように繰り返し話し合う場を作りたい。 (外部評価) 利用者一人ひとりを尊重した態度や言葉遣いができるよう職員同士で話し合い、互いに注意し合っている。節度を守り、親しみや思いやりある対応を心掛けている。管理者の指導のもと利用者の誇りやプライバシーを損ねないよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 言葉だけではなく、表情や反応を注意深く捉え、その意味を考え対応するように話し合っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 個々の生活リズムが優先できるように支援している。職員やホームの都合で対応出来ないときは、事情を説明させて頂き、出来るだけ理解していただけるようにしている。また、別の機会を設けるようにしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 地域との交流、外出の機会、行事を取り入れる、など身だしなみを気にしたり、おしゃれしたい気持ちになるように支援している。また、個々のおしゃれの感覚を尊重している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 季節の食べ実のを取り入れ、手作りを心がけ、職員と利用者が一緒に食卓に着くことで話が弾み、美味しく、楽しく食事が取れるような雰囲気作りに努力している。調理の際、一緒に台所に立たれる利用者もおられ、車いすの方などはテーブルで下ごしらえをお願いすることもある。 (外部評価) メニューは職員が交代で考え調理している。季節感や利用者の好みを取り入れた食事は、野菜が多く使われ味付けも美味しく、ほとんどの利用者が完食している。職員も一緒に食卓を囲み同じものを食べ、楽しく会話しながらさりげなく見守りをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 職員が、食事や水分の大切さを勉強し、個々の状態や、好みに合わせ工夫している。また、記録に残し、情報を共有している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後3回の口腔ケアを習慣化できるように声掛けし、必要な所は援助している。必要な場合には、歯科往診や、口腔ケアも取り入れて、日常のケアにもアドバイス頂いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 日頃の排泄パターンを把握し、個々の状態に合わせて、日中はトイレで排泄出来るように、夜間は、安眠を目的とした排泄の援助を行っている。なるべく薬に頼らない自然な排泄ができるように、食事や運動など工夫している。	
			(外部評価) 日中は排泄パターンを把握しトイレでの排泄を支援している。夜間はオムツやパットの使用により安眠を優先させているが、利用者の不快感を軽減させるため使用するオムツ等の枚数はできるだけ少なくしている。失敗した時も羞恥心に配慮しながら対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 野菜、寒天、ヨーグルトなどを多く取り入れた食事の提供や、十分な水分摂取、適度な運動などで便秘にならない生活の工夫を行っている。また、トイレで落ち着いて排泄できるように環境作りに気を付けている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 利用者の希望や状態に合わせて、臨機応変に、入浴日、時間の設定を可能な限り行っている。入浴が楽しみや憩いの時間となるように、寝たきりの利用者では2人介助など工夫し、出来る限り湯船につかっていただき、ゆっくりと入浴出来るように援助している。	
			(外部評価) 利用者の希望や体調に合わせて柔軟に対応している。必要に応じて2人介助で行ったり、夜間1人で入浴する利用者もいる。入浴好きで楽しみにしている利用者が多く、清潔が保たれ気持ちよく生活できている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) それぞれの生活習慣や体調に合わせて、食事の時間なども臨機応変に対応している。夜間は、安眠を重視したケアを行っており、日中の過ごし方にも気を付け、メリハリのある生活を送れるように援助している。日中もベッドで休息できるように援助している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 往診時には主治医から本人に解りやすく説明頂いているが、十分理解出来ない事も多い。往診時や受診時には、必ず家族様や職員が付き添い、正しい情報提供を行い、また、医師からの話と一緒に聞くようにしている。副作用についても、事前に情報を聞き、職員間で情報を共有し変化や状態を報告できるように記録に残している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) これまでの生活歴等を活かしながら編み物、料理、洗濯物干しなど職員と一緒に楽しみながら行っている。また、役割として活かしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 日々の散歩や買い物などできる限り支援している。また、気軽に、個々に外出できるように職員が協力し合い、勤務を工夫しながら、支援している。 (外部評価) 利用者の希望に合わせて、買物や花見、観劇等外出して喜ばれている。近くの温泉に足湯があり利用している。実家への帰省や墓参りも家族と協力し支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 買い物や外出の際には、できる限り利用者にお金を払って頂く機会を作り、社会との繋がりを感じて頂けるようにしている。お金を持っていないと不安な利用者には、家族様の理解をいただき、少額のお金を持っていただく場合もある。また、必要な際には、預り金があることを利用者に伝え、安心していただいている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 入居者様が十分に行えない部分はフォローしながら、電話や手紙のやり取りを援助している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節を感じて頂く為に生花を生けたり、手作りの飾り物を共有スペースに飾っている。環境を整え、快適に過ごせるように支援している。また、職員の声の大きさ、テレビの音量、レクリエーションの際の音などにも配慮している。	
			(外部評価) マンションの1階を改築してグループホームにしている。玄関から直線の廊下を挟んで両側に居室があり、廊下には行事ごとに撮影された写真等が飾られている。居間兼食堂は明るく食後はお茶を飲みながら利用者と職員がゆっくり過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 安全に配慮しながら出来るだけ自由に思い思いに過ごせるように、また、個々の生活スペースにはプライバシーに配慮しながら必要以上に立ち入らないようにしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居時に馴染みの物を持ち込んで頂く事で、今までの生活と同じような環境で、安心して暮らして頂けるように援助している。仏壇を持ち込まれている方もいる。	
			(外部評価) 各居室の入口には名前が書かれたり、利用者ごとにわかりやすい目印を付けたりする等の工夫がされている。たんすとベッドは備え付けられている。テレビやいす等、使い慣れた物が持ち込まれている。利用者ごとにプライバシーも確保され、安全に居心地よく過ごせる居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 手すり、表札、表示などを利用し、生活スペースで困っている場合には、日用品などを工夫したり改修や介護用品を取り入れ、安全に生活出来るように支援している。	